

ほーほーどり

No. 2
1975年
1, 2月号

我孫子野鳥を守る会

こあいさつ

会 長
渡 辺 義 雄

あけましておめでとうございます。
昭和50年を迎え、みなさま益々御健勝の事と存じます。今年は野鳥の会にとりまして、過去を顧みる年でもあり、明日への躍進をはかる年でもあるように思われます。

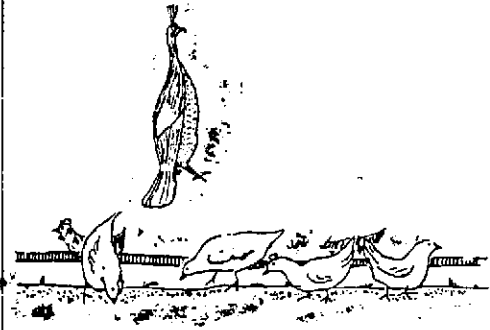
かえりみますれば探鳥会からはじまつて、ホテルの養殖、水鳥の観察、白鳥飛来のための手助け、オオムラサキの養生、センダイハギの栽培、ふくろうの手あて、どれをとつても忘れがたいものばかりでした。ホテルも何とかだいじようぶだし、オオムラサキもはじめは幼虫がいなくなつたが、又、手を加えているし、カモも入れかわりたちかわりやつてくるようになりました。3年前渡来した水鳥は9,000羽、年々減つて昨年野鳥の会の調査によると4,000羽と推定という悲しい現実がありました。これには多くの人達の協力や、エサ場の設置があつたからです。その上に水鳥観察所撮影小屋もたてられたことは、さらにうれしいことでした。

しかし、こういう中でただ一つ案じられるのは白鳥のことです。
47年私達には、まさかと思われた手賀沼に白鳥飛来の活、やがてそれは利根川にも。しかも7羽が11羽になつて、48年11月12日には16羽になつて現われました。信じられないおどろくべきことでした。やがて1年は過ぎ、49年11月10日6羽の偵察の一群が3度も中州にやつてきました。自分

達のねぐらにしようと思つたのでしよう。しかし、サンドポンプの砂利採取作業は、よしやなく進められ、それをうけつけません。あの白鳥たちは、何処へいつたのでしよう。もう2度とこないのではないか。そんな不安と心配がよぎります。それにしてもまつたく残念です。布佐中の先生、石井さん、生徒諸君の御苦勞に対して感謝の意を表したい。雨の日も風の日もいとわず根気よくエづけをしてくれました。

野鳥の会がこゝまでくるにはその他にも沢山の協力がありました。ホテル池設置にしても、カモのエサ場を作るにしても、中村さん、山崎さん、石戸さん、武子さんの。自分の仕事をなげうつてものお骨折りは、大変なものでした。またエサ供給の市内農家の皆さん、学校給食のパンくずもありがとうございました。

以上のような過去の苦しい貴重な体験をもとにして、今年こそ、飛躍の出来る年でありませう、市当局並びに教育委員会の御指導、会員一同の御協力をお願いします。最後に皆様の御健康をお祈りして新年の御挨拶といたします。



○ 自然観察のすすめ (1)

(我孫子の生物誌を私達の手で)

本年を初年度として我孫子を中心とした生物誌を毎年作る計画です。ついては、みなさんから自然の観察情報をいたゞかなくてはまゝとまりませんので是非御協力をお願いいたします。

自然の観察はわざわざ遠出をする必要はありません。ごく身近なお宅の庭、通勤、通学、買物等のゆきかえり、又は散歩の折に一寸と自然に注意をむけて下さい。その気になれば尽きることのない楽しみを引きだせると思っています。同じ場所をつゞけて観察してゆくことが貴重な資料となります。

はじめは知つているものからはじめましょう。あなたは、いつ、どこでウグイスのさえずりをききましたか(初鳴)そして、いつまで鳴いていましたか(終認)、今年はじめて

ツバメを、いつ、どこで見ましたか(初認)といったようなものでよいのです。

さあ小さな手帳(野帳)と鉛筆を用意してはじめてみて下さい。

珍奇なものだけでなくごくありふれた情報でよいのです。観察は野鳥、野草、昆虫、小動物生物なら何でも結構です。

ウグイスの動勢、ヒバリの初鳴、ホオジロの初鳴、等は如何です。アオジ、アカハラがさえずりはじめたら旅立ちする日が近いと思つて下さい。

ノツバキ、スマレ、ウメ等の花のたよほしいものです。

(このことでのお問合せは 0471-82-2783の高橋へお願いします)

なおフクロウを観察されたときは、御連絡下さいれば幸いです。

以下次号

◇ 行事案内

◇ 手賀沼探鳥会(雨天中止)

月日 1月26日(日)

集合 我孫子市役所玄関前 9時

予定コース 市役所-高野山地先遊歩道-ホテルの園まで。徒歩約2KM
解散11時頃

備考 今冬は鴨が昨シーズンより多いようです。観察所と写真撮影用の小屋ができました。望遠レンズなしでも撮

影できますから利用して下さい。
防寒は十分に。

◇ 手賀沼上沼探鳥会(雨天中止)

月日 2月23日(日)

集合 我孫子中央公民館前 9時

予定コース 公民館-沼の北岸を北柏に向つて歩きます。徒歩約3KM余
解散11時半頃

備考 鴨、アオサギ、ミコアイサがきれいです。まだ寒いので防寒具はお忘れなく。

◇ 行事報告

◇ 手賀沼探鳥会(1974年10月10日)

《認めた鳥》 スズメ、カワラヒワ、モズ、カケス、ヒバリ、ホオジロ、ムクドリ、ムギマキ、コサギ、ダイサギ、ヨシゴイ、ベニスズメ、セツカ、ハクセキレイ、オオバン、バン、コガモ、ハシビロガモ、カルガモ、ユリカモメ、タシギ、エリマキシギ、チウウサギ、

ヒヨドリ、ハシボソガラス、キジバト、コジュケイ、イソシギ、タカブシギ、コチドリ、クイナ、カイツブリ、以上32種

＜参加者＞ 相業比磋、水垣勇、水垣きよ子、中弘、中廻子、三保菊枝、三角静敬、三角佐和子、石戸源次、谷野剣治、坂巻忠雄、高橋敏夫、石戸いち子、三谷澄子、渡辺義雄、大竹徳治、以上16名(途中で帰られた方が数名記帳もれとなりました、あしからず)

◇ 手賀沼探鳥会(49年11月10日)

<認めた鳥> ハシボソガラス、カケス、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ビソイ、ヒバリ、タヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、モズ、ヒヨドリ、セツカ、ツグミ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、カルガモ、オカヨシガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ミコアイサ、カワウ、カイツブリ、キジバト、タカブシギ、オオハシギ、タンギ、シロチドリ、コチドリ、ユリカモメ、オオバン、コジュケイ、ドバト、以上38種

<参加者> 三角静敏、三角佐和子、坂田美、飯泉仁、三神鶴吉、三神淑子、水野義宏、水野小夜子、青山一二、三谷澄子、岩井涼子、渡辺敏子、岩内恵美子、海老原五月、渡辺敬子、渡辺義浩、岩村曜子、深谷幸枝、布施むつ子、田中哲也、石戸源次、渡辺義雄、吉田昇、山崎慶治、中村昶、吉田孝、高橋敏夫、以上27名

上記手賀沼探鳥会は、いづれも沼の南岸を手賀大橋から柏まで同一コースを探鳥したのですが、天候と鳥種に恵まれ、ムギマキ、オオハシギ、等珍らしいものにも出あえて大変楽しい会でした。

◇ セイタカアワダチソウ退治

(49年11月4日)

<参加者> 渡辺義雄、坂巻忠雄、石戸源次、高橋敏夫、金子さん、三谷澄子、畑幸正、吉田孝、橋本えい、渡辺浪江、外市役所より10名、以上20名。

急な行事となりましたので、参加者が少なかったようですが、市役所の方々の応援を得て手賀沼公園から手賀大橋の間で除草作業を行ないました。柏在住の会員の方が参加して下さいましたが、厚く御礼申しあげます。又市の方々にも大変御世話になり厚く御礼申し上げます。

◇ 印旛沼探鳥会(49年12月8日)

<認めた鳥> ウグイス、ムクドリ、ハシボソガラス、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、オオジュリン、ヒバリ、タヒバリ、ハクセキレイ、モズ、ヒヨドリ、セツカ、ツグミ、ツバメ、コサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、スズガモ、ミコアイサ、オオバン、カイツブリ、ユリカモメ、オナガガモ、バン、タンギ、ハジロカイツブリ、キンバラ、ホシハジロ、コハクチヨウ、以上34種(但しコハクチヨウは木下地先の利根川にて)。

<参加者> 三谷澄子、水垣勇、布勢むつ子、渡辺浪江、三角静敏、三角佐和子、水野義宏、水野小夜子、松島まさ、島田、山崎慶次、石戸源次、志賀鉄雄外小2、須藤泰久、渡辺義雄、中村昶、三神鶴吉、三神淑子、飯川誠一、三俣きくゑ、神長、神長外小1、畑幸正、中村成男、田中秀雄、柴田満子、川村健治外小1、古関せき、上原美子、坂巻忠雄、高橋敏夫、吉田昇、上野成久、菱沼久三郎外小1、岩村守外大3小9、岩井涼子、渡辺敏子、岩内恵美子、海老原早月、渡辺敬子、渡辺義浩、坂本ヨシミ、鶴井、松田幸保、福田、以上61名

予約取消0という盛況、水垣、三谷両幹事の手ぎわのよい受付のおかげで、定時出発、バス1台と乗用車5台に分乗、途中木下寄りの利根川でコハクチヨウ16羽を観察、幸先きよいスタートとなりました。

船戸大橋で下車、沼の堤の上を北進、日本野鳥の会千葉支部、成田野鳥を守る会、の方とも一諸になり、たのしい観察をしました。

ツバメが20数羽認められました、おそらくこのまま越冬するのでしょう。無事に越冬してほしいですね。

更に甚兵衛渡しの方の沼にもよつて帰つてきました。朝の内雲が多かつたが間もなく晴れあがつて暖かな快晴となり無事たのしく終了いたしました。

☆ 野鳥の観察

我孫子第3小学校生徒

渡辺敬子、磯辺敏子、岩内恵美子、

11月10日私達は手賀沼8キロコースに野鳥を見に行きました。夏とはちがつて、今ごろになると見たことのない鳥がたくさん来ていました、例にあげれば、ミコアイサ、ユリカモメ、ビンズイなどほか数種類のめずらしい鳥がいろいろ見られました。なかでも印象に残ったのは、ハクセキレイで、ほかの鳥とちがつて波形のように空を飛びまわって、翼が白く光っていました。

コースをまわっているときなど、おじさんたちが親切にしてくれて、そうがんきょうなど4つぐらい私達にかしてくれました。

野鳥観察にこなかつた先生のかわりにしんせつなおじさんが、先生のかわりに鳥の名や特長などを教えてくれました。お屋のとき、私達は会長さんにパンを買ってもらい、ほかのおじさんたちには飲物やゆで玉子なども

らい、たいへん親切にしてもらいました。

最後のコースにはかんのするどい鳥ばかり集っていた、おじさんたちは私達がさわいでいるのを見て「静かに」と注意された。土はブカブカして望遠きょうを立てるのに、いろいろ場所をかえました。

しばらく鳥を見て、来た道をもどりました。そのときおじさんがこらへんでとりあわせをしましようかと言つたので、私達はとりあわせつて何だろうなあと思いました。そう思っていると、おじさんが鳥の本をだして、どんな鳥が見られましたかと、ほかのおじさんたちに聞いたので私達は、とりあわせというのは、どんな鳥がいたのか、何種類の鳥が見られたか、みんなで話し合うことなのかと思いました。みんなで話し合つた結果見られた鳥は38種類で私達が見た鳥は23種類で、おじさんが「あんたうちでもそんなに鳥が見られたの」と言つてくれたので、私達はうれしくなりました。

☆ 手賀沼へ水鳥を求めて

畑 幸正

私は水鳥が好きだ、よくシギ・チドリ・カモを見に行徳の新浜へ探鳥に行つたが、そのうちに埋立がはじまり、ダンプカーが砂埃りを上げて通るようになり私は嫌気をさしてどこか静かな探鳥地はないかと地図をひろげて探したところ、手賀沼が、まず私の家から行きやすかつたので、43年10月26日、今、私は手賀沼へたぶんカモ達がもう渡つて来ているだろうと心はずませて、早朝まだ人通りの少ない道を一人、観察道具をひとそろい入つたルツクザツクをしよつて歩いていた、まもなく手賀沼に近づくと、水面を這うように、朝霧がただよつている中から、オナガガモの、ビツ・ビツ・と鳴く声、又、マガモのガー・ガーの声を聞いて、はやる心をおさえて静かに沼へ近づき、鳥を見る為に望遠鏡をルツク

ザツクから出し、仕度をしていると、80才ぐらいの老人がそばに来て「なにをしに來られたのですか」と話しかけてきたので「鳥を見に來たんですよ」と言うと、老人は「私の若い頃は、カモが何万羽と来て、舟で弾に出ると、舟の中が山になるくらい、ガンやカモが取れて、東京の方へお歳暮用に、沢山送り出したもんだが、今ではカモが少なくなつて、寂しくなりました」とさかんに昔をなつかしがつていた、私はその話を聞いて、この沼にガンが來ていたなんて、今の手賀沼の様子は夢のような話である、老人が立ちさつたので、私はススキの間から、20倍の望遠鏡で、カモ達の様子をのぞきこむ、まだ狩猟解禁前なので、のびのびと、2.000羽近くのカモと、オオバンが500羽ぐらい、30メートルの距離まで近づき、動作をはつきり見ることが出來た。今キンクロハジロの食事時間で、さかんに潜水して、貝をくわえて上つて

きて、おいしそうに貝を食べている、太陽が上がるにつれて、霧も晴れて、キンクロハジロの紫色の丸い頭が、金属光沢に光り、又、キンクロハジロの特長である羽冠も、はつきり見え、黄色の目がぱつちりと、とても可愛らしい、私はしばらくその場に見惚れていたが、しばらくすると、頭上をオナガガモが、羽音を響かせて50羽、100羽と飛びはじめ、カモが落ち着きをなくしてきた、そして

◎ オウムラサキ(蝶)の幼虫採集行
我孫子市野鳥の会々員
水垣 村子

1月23日(勤労感謝の日)朝7時過ぎに渡辺会長さんに電話する。実は昨夜9時過ぎに筆者宅に渡辺さんから電話があつたと家族から知らされたからである—— 当夜、私は明日からの連休2日を控えて例の如く縄のれんの吊り下がって居る巷を彷徨して居つて留守であつた。さて電話に出て来た渡辺さんとの会話は、「モシモシ渡辺さん、おはようございます、何か昨夜私に電話があつたとのことですが、御用件はなんなのでしょう」「おはよう、実は今日水垣さんお関なら筑波方面にオウムラサキの幼虫を探りに車で同行してもらいたかつた、突然のことなので大方無理と思うので一諾にゆく人達と相談して電車で行くことにした云々」電話の途中で私は大いにあわてた。オウムラサキと言う言葉が忽然と会話の中に現われたからである。一暖頭の中が錯乱した「待てよ、この俺は昨夜の続きでまだ酔っているんじゃないか」と。そこで慌てて聞きかえした「モシモシオウムラサキと言うと蝶の一種で、例の国蝶に指定されたアレですネ」「そうです、その幼虫を採集して来て成虫に育て、野鳥の森に放餌するんです」聞いて居つて、次第に事情が判明するに従い筆者はだんだん自分自身が興奮して来るのを禁じ得なかつた。なんとこの仲間の人達は素晴らしい生き方をして居るこ

とくの方から、白つばい鳥が1羽、だんだん比方へ飛んで来た、私はこれでカモ達が飛び立つたのがわかつた、ミサゴが来たのだ、ミサゴはすぐ側までくると停空飛翔をして、下の様子をうかがつていたが、そのまま柏方面へ飛びさり姿を消してしまつた。カモはそれを境に移動してしまつたので、私も沼を去り家路につく。それ以来私は手賀沼が好きになり、暇さえあれば手賀沼へ通うようになった。

とよ、なんと超世俗的な暮しぶりよと三嘆、驚嘆した、やれインフレだ、超物価高だ、政治不在だ、ストライキーだ、プロバン爆発だ、殺人だ。。。。とよくまあロクでもないことが次々に発生してゆく末期の症状の昨今の世相の中にあつて。。。。蝶の幼虫を探し求むるとは。正にこれ荘子物語の『無用の用』を地でゆくものでなくてなんであろう。結果は行くも行かないもない、我が50年の生涯において混沌たる浮世を外にこんな素適な体験なんて滅多にあるものではない、願つてもないことよ、電車の予定を急遽自動車行に変更して頂いてこの優雅にして有意義なことにろみに参加させて頂く。

同行は渡辺会長の外に植物や野鳥に滅法強いIさん、手先きの器用な—— 尤も本業が鍛冶屋さんなので至極当り前ではあるが—— Nさん、それに温厚なYさんと運転手の私の計5名、思えばこの人達とは今年だけでも合計三回同行させて頂き、そのどれもが一生の中に何度もあるまいと思われる珍重な経験を味あわせて頂いた、即ち早春2月には山百合の球根を市役所の周辺の丘陵に植え夏に綺麗に咲いた。市役所に来られた人の中には御覧になつた方も居られることでしょう。次は6月に館林市の茂林寺にコウ木ネの根をいたよきに—— これは野鳥の会で手掛けて居るホテルの養殖池に植栽するため、そして年末近き今日はオウムラサキの幼虫採集である。大の男が5人もで、高いガソリンを消費して仕様もないホテルとかチヨウチヨウなどを餌育

して自然に放つて、なんと言ふことだと世のオト子達の中には笑つて居る人もあることでしよう。左様ゼニ儲けに血まなこになつて居る御仁には、我々の一連の行動は愚の骨頂であり到底理解してもらえないことでしよう。なんと思われようと、なんと言われようと我々一行5名は我が車庫前に集合し8時前に目的地筑波に向つて出発した。連休のことゝて懸念された6号国道の車ラツシユも大したこともなく順調に目的地に到着、一同筑波神社に参詣、相憎と本日の筑波行は昨日迄の汗ばむ程の小春日和とは打つてかわつて、今にも雪でも降つて来そうな寒い寒い一日であつた。名物の筑波おろしもヤケに身にしみさせた。私以外の4人はどなたも60才過ぎの人許り、鼻水をすゝりすゝり、寒い寒いと言いたがら田の中、畑の中、林の中、藪つからの中と葉の幼虫を求めて数時間かけずり廻りました。全くもつて普通の人の眼からは正に気狂いの仕業と思われても致し方ないことです。ちなみに手許の図鑑、参考書によると、オオムラサキ——タテハチヨウ科オオムラサキ属。日本の国蝶で、朝鮮、台湾、中国などにもいる。開張(葉の大きさ)は13センチあまりで大きく、6、7月に姿を現わす。幼虫はエノキを食べて育つ。又百科辞典には、雄は地色は黒色、前ばね及び後ばねの基部から中央部は美しい紫色で、黒色部には黄紋を散布し、紫色部には白紋を散布する。雌は地色は一面に黒色で紫色部を欠く、裏面はオスメスともに濃い緑黄色であるがメスはオスよりも黄色がつよい、更に幼虫はエノキの葉を食べ、幼虫のままエノキの根本の落葉の下で越冬する。成虫は6月に発生し、高所を産卵にとぶが、

好んで樹液に來集する、本種は大型のうゑに美麗なことで世界的に有名で、全世界のタテハチヨウ科中最大の種類である。なお本種は1957年10月の日本昆虫学会40周年記念大会のうちに日本の国蝶に決定され、その後75円の通常切手の図案にも使用された。

ともあれ寒風吹きつさらしの筑波山ろくの山野に葉の幼虫を求めて我々一行は終日奮闘した。そして所期の目的を完遂し、夢にまで見た幼虫を採集することが出来た。寒い中をエノキの根方にうずくまり鼻水をすゝり乍ら無数の落葉の1枚1枚を拾い上げ、~~その~~裏表を凝視しつゝ体長20ミリ、完全保護色の幼虫を発見するのは決して容易な作業ではない。しかし、帰途予定通りの成果を得て山を去る時の吾々は幸福感で一杯であつた。あとはこの冬を上手に越冬させて羽化させるのみ。来年の夏には美事なオウムラサキの綱隊を手賀沼畔でお目にかけることが出来るでしょう。

寒くつらくはあつたが幼虫採取の外に晩秋の山野は黄葉、紅葉、数多くの宝石のような木草の実等は大いに我々の目を楽しませ、慰め、本日の行動を励してくれた。天に感謝する。

尚、今回の一連の行動の詳細については採集した場所、その方法、その他諸々については諸般の事情から公開出来ません。宜しく御賢察下さい、末尾に当然のこと乍ら採集において我々は幼虫の総べてをとりつくす、事実上不可能ではあるが)といった暴挙は絶体やつては居らず相当数は自然のままに残して来たことを付記しておく。

S 49. 11. 24. 道陸庵にて

編集後記、折角利根川に渡来した白鳥既になし、私達に力のないことを痛感しています(T. T)

我孫子野鳥を守る会報

発行人 渡辺義雄、我孫子野鳥を守る会 住所 我孫子市高野山556(TEL-82-0521)